

---

---

## 【講 義】

# 日本古典籍の基礎知識 「はじめての古典籍」

---

---

講師 神作研一（国文学研究資料館教授）



# はじめての〈古典籍〉

国文学研究資料館

神作研一

## 《目次》 はじめに

- 一、書誌学とは何か
- 二、写本と刊本
- 三、棒目録と解題目録
- 四、書誌記述の方法
- 付、ホンモノの魅力／原本のチカラ
- おわりに

### ◆『日本国語大辞典』第二版（小学館）

・和 本……①漢学に対して和学に関する本。

②唐本や洋本に対し、日本で作られ、日本風に装丁した本。和綴の本。また、日本で板をおこした本。和書。

・和 書……①漢籍・仏典・唐本や洋書に対して、日本の書物。また、日本語で書いた書物。国書。

②洋装本に対し、和綴の書物。

・和 古書……未立項。

・典 籍……（和書・漢籍・仏典など）書物。書籍。てんじやく。

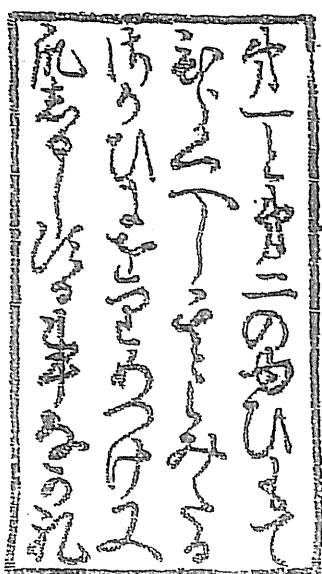
・古典籍……未立項。

### ◆『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、一九九九）

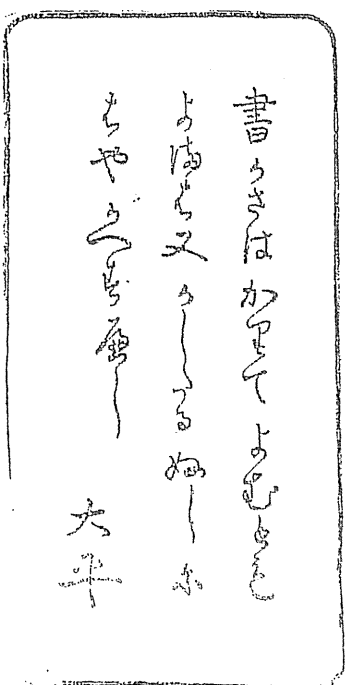
#### 古典籍（てん）（総説）

古い書物の中で、特に内容・形態ともに優れているものをいう。しかし、典籍の用法同様、美術品の価値から、時代区分を含んだ学術的評価の用語に推移してきており、わが国の場合、室町時代以前の書籍を江戸時代以降のものとして区分して用いたり、江戸末期以前の写本・版本全体を明治以降のものとして区分して用いる場合も出てきている。『古典籍総合目録』『国文学研究資料館編、岩波書店、平成2年』は『国書総目録』続編と銘打つ如く後者の例で、明治以降現代に至る活版洋装本の時代からすれば、装訂、料紙の形態面からも、内容に関しても異質性が歴然とする写本・版本を古典籍と呼んだのである。この場合もわが国の伝統文化尊重が含意されているが、「物としての本」の均質性が優先され、内容・形態に関する優劣は、収録書目では配慮されていない。

古典籍学も、本来は内容の優れた、美術品的価値をもつ古書籍に関する学を意味するが、学術的価値をもつ古書籍の学に拡大されて用いられる段階が到来している。江戸末期以前の写本・版本をもはや前代の文化遺産と見做す社会通念が形成されつつある現在、それを対象とする学の名称として積極的意義を担うと考えてよからう。（松野陽二）



堤朝風の蔵書票（板摺）



本居 大平

#### 【資料1】書誌学

##### 《定義》

- ☆「書物を対象とした文化史的研究」と規定される。
- ☆くらべる学問であり、また術語の体系である。
- ☆方法論——社会考古学の立場で、かつ科学的に行うべし。
- ☆何が何であるか。

##### 《分類》

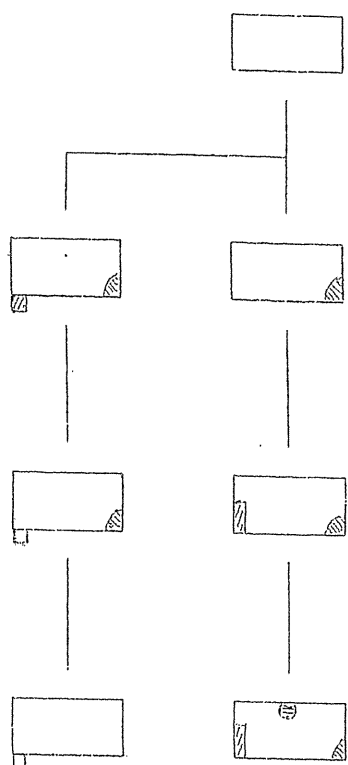
（書物の内容による分類ではなくて）「書物それ自体の生成過程による分類」に従って、「写本」と「刊本」とに大別される。

☆但し、刊・写の境界は微妙。

（例）取り合わせ本、補写、丹緑本、刊写本、抄物などの書入本など。

#### 【資料2】写 本

- ☆原則的にタテに連鎖する。
- ☆ゆえに、諸本を系統立てることが先ず何よりも大切。
- ☆異文・異本の発生率、高し。



意識的（改作）

無意識（誤写）

○本文が流動する。

○一つとして同じ本というものは存在しない。

○読者の絶対数は少ない。

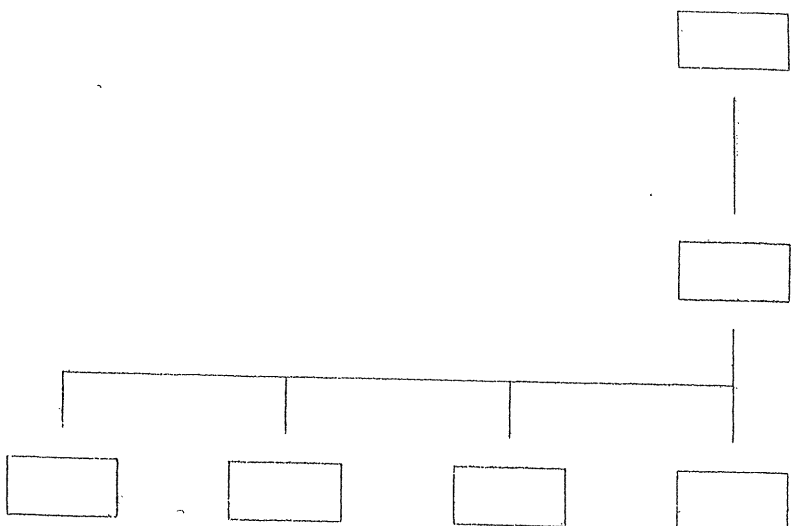
○外形的な諸要素（大きさ・表紙の色など）は用をなさず、重要なのは「本文」。

いかなる系統に属するのを見極めるコト。

↓ 巻頭

「本奥書」か「書写奥書」か

【資料3】刊 本 ☆原則的にヨコに広く展開する。



○簡潔である——少ない面積で、大量の点数を収載できる。

○見やすい

▽一点当たりの情報量が少ない

↓分析を経た結果の、凝縮された内容を有していなければならない。

↓データの生死は、  
目録の「方針」に左右される。

〔例〕『改訂 内閣文庫国書分類目録』（国立公文書館内閣文庫編刊、一九七六）

同	同發東京抄缺)	學	六册	二〇三	九号
同	同發東京抄缺)	楓	六	二〇三	九〇
標註枕草子讀本	五卷 佐々木弘綱 明治二十四刊	楓	一	二〇三	六六
[方丈記]	(前田家藏鎌倉時代寫本) (鴨長明) 昭和二三刊影印・尊經閣	一	二〇三	一〇三	一〇三
方丈記	(鴨長明方丈記) (鴨長明) 刊	林	一	二〇三	一〇七
[方丈記]	(鴨長明) 江戸初寫	江	一	二〇三	一〇八
鴨長明方丈記之鈔	(刊本) 寫	楓	一	二〇三	一〇九
鴨長明方丈記之抄	(刊本) 安永五寫	和	一	二〇三	一〇六
つれく種	(靜嘉堂文庫藏釋正徹手寫本) (吉田兼好) 昭和二六刊影印・國立國會圖書館	二	二〇三	一一三	一一三
(徒然草)	(つれく種三善峰本第二種本) (吉田兼好) (慶長刊)古活	楓	二	特七	一八
同	(德峰本第四種本) (吉田兼好) (慶長刊)古活	二	特六	三	三
同	同	昌	二	特二九	四
同	(鳥丸本) (吉田兼好) 慶長一八跋刊古活	昌	二	特六一	九
同	同	和	二	特二九	三
徒然草	星代弘賢校 文化一二跋刊	楓	二	二〇三	一一一
(徒然草壽命院抄)	(徒然抄) 秦宗巴 慶長九刊古活・如庵宗乾	昌	二	特二九	二
(野槌)	(稿本) 林信勝(屋山) 江戸初寫自筆等	江	七	特一九	一
同	二卷 林信勝 刊	楓	二	二〇三	一〇六
同	(書入本) 二卷 林信勝 寫	和	二	二〇三	一四七

【資料5】  
解題目録

○一点当たりの情報量が多い。

▽長い。肥満体である。

▽見にくい。

(例)

【資料6】理想の目録Ⅱ分析された棒目録と、正確に記載された書誌解題とを合わせた目録。

(例) 林望・ユートニツキ編『ケンブリッジ大学所蔵 和漢古書総合目録』(八木書店、一九九〇)  
神作研一『金城学院大学図書館所蔵 日本古典籍分類目録』(金城学院大学、二〇〇二)

- |     |  |                          |
|-----|--|--------------------------|
| 631 | 西鶴名残の友 (目録題) 5巻 井原西鶴<br>元禄12刊 (大坂、無書肆名)<br>* 図録『西鶴』図版に同版。外題「(絵入)西鶴なこりの友 四五 終」(外題巻附四五共に刷り)。(印記)「曲亭」「馬琴」「菊之屋」「小六」「待買堂」「江戸四日市古今珍書脩達摩屋五一」。   | FJ.754.2<br>S, A 大合1冊    |
| 632 | 好色文伝授 (目録題) 5巻 由之軒政房<br>元禄12序刊 ([京]、風月半七)<br>* 外題「(由之)好色文伝授」。(印記)「谷」「吝藤文庫」「菱間吝斎書記」。  | FJ.764.62<br>S, A 半5冊    |
| 633 | けいせい色三味線 (目録題) 5巻 (江島其碩)著、(西川祐信)画<br>[元禄14]刊・[同15]修・[明和頃]過修 ([京、八文字屋八左衛門])<br>* 刊年は国会図書館蔵本、修年は都立中央図書館蔵本各刊記による。巻5(漢)名寄末2行削除過修。巻4 5末に明和頃役者評判記所附の蔵版目録(八文字屋)を附す。<br>(印記)「蔵章」「菱間吝斎書記」「菊屋文庫」印文未詳印二。(墨書)「蔵茂」                              | FJ.764.48-49<br>S, A 横5冊 |
| 634 | 東海道敵討 (目録題) 6巻 都の錦<br>元禄15刊 (京、河勝五郎右衛門/江戸、升屋五郎右衛門)<br>* (墨書)「みよしや甚二郎」。   | FJ.764.7<br>S, A 大合1冊    |
| 635 | 東海道敵討 (目録題) 6巻 都の錦<br>[元禄15]刊・後修 (無刊記)<br>* 外題「(東海道/敵討)元禄曾我物語」。634に同版、西沢軒跋を除去。入木刊記書肆名削去。(印記)「」「坂尾甚」「信直」「待買堂」「江戸四日市古今珍書脩達摩屋五一」。(墨書)「原田茂代」。  | FJ.764.8<br>S, A 大6冊     |
| 636 | 沖津白波 (目録題) 5巻 都の錦<br>元禄15刊 (京、上原半兵衛/大坂、村田治兵衛)<br>* 序題「白波」。(印記)「玉藍舎蔵本」「柳町」「福田文庫」「鄰」。  | FJ.764.4<br>S, A 大5冊     |
| 637 | 傾城洗髪 (目録題) 5巻 井上軒流幾<br>元禄16刊 (大坂、本屋三郎兵衛/京、山本六兵衛)<br>* 外題「けいせい洗髪」。(印記)「菊之屋」「福田文庫」。  | FJ.764.61<br>S, A 横合1冊   |
| 638 | 〔佚題浮世草子〕 存巻1-3 題・喜席軒自省著、(都の錦)著<br>[宝永8頃]刊・[正徳3以降]修 (刊記欠)<br>* 『好色堪忍ぶくろ』の改題後修本。作者は序の筆跡と内容により推定。刊年と修年は中島隆『都の錦』の新出浮世草子一ヶケンブリッジ大蔵『喜席軒自省著述本』について「『研究と評論』第36号、1989、早稲田大学」による。巻3前半欠丁。書外題「喜席軒自省著述本」。(印記)「イセイ治」「待買堂」「江戸四日市古今珍書脩達摩屋五一」「梅園庫」。 | FJ.764.56<br>S, A 横合1冊   |

46  
新板 繪入  
伊勢物語  
(外題)

二卷（存卷上）  
〔寛文二年〕刊・後印

913.32  
I 69  
6  
W

47  
闕疑抄

五卷 細川幽齋注  
〔承応二年〕刊。寛文八年印（〔京〕、中村五兵衛）

大合一冊  
913.32  
H94  
W

\*印記 「茶白山文庫」

48  
伊勢物語新釈

六卷 藤井高尚注  
文政元年刊（大坂、河内屋儀助等六肆／  
奴豆能舍葦板）

女尊  
大六冊

913.32  
F57  
W

49  
大和物語

二卷  
慶安元年刊（〔京〕、村上平樂寺）

大  
二  
冊

913.33  
Y45  
6  
W

50  
湖月鈔  
(目錄題)

六十卷 紫式部原著、北村季吟注  
延宝元年跋刊（〔京〕、村上勘左衛門等四肆）

大六十冊  
913.36  
Ki68  
a  
w

\*印記 「知足堂／金子氏／蔵書印」 「茶白山文庫」 他。

【資料7】書誌記述の方法

函架番号	巻数	編著者名
書名	刊・印・修年（版元所在地・版元名）	書型 冊数
	筆写年	

①表紙（題簽を含む）

②見返し

コ

ヨ ③首目（序・凡例・目録…）

× ④本文巻頭内題をとる↓目録題・外題（原題簽に限る）・尾題・序跋題…

テ ⑤版式（行・字・匡郭・版心・訓点…）

タ

⑥尾題

⑦跋・後記など

⑧刊記・奥付

⑨その他の特記事項（印記・旧蔵者・書入・挿絵・広告など…）

\*備考…実物を見ながら気づいた点をすぐここに詳しく説明しておく。

【資料8】書誌著録の際の主要工具書

- 『色の手帖』尚学図書編 小学館（一九八六）＊国際版
- 『文様の手帖』尚学図書編 小学館（一九八七）
- 『表紙模様集成』調査研究報告第二五号別冊 国文研調査収集事業部（二〇〇四・一一）
- 『東方年表』大字版 藤島達朗・野上俊静編 平楽寺書店（一九九六）
- 『増訂 新編蔵書印譜』全三巻 日本書誌学大系 青裳堂書店（二〇一三・一四）
- 『蔵書印提要』日本書誌学大系 青裳堂書店（一九八五）
- 『形でひく篆楷字典』丘襄二編 マール社（一九八三）
- 『くずし字辞典』波多野幸彦監修 思文閣出版（二〇〇〇）
- 『異体文字集』静岡県富士郡芝川町郷土史研究会編刊（一九七三）
- 『シンポジウム』奥書・識語をめぐる諸問題 田中登・牧野和夫・武井和人・新藤協三  
『調査研究報告』一七号、国文学研究資料館文献資料部、一九九六・三
- 『シンポジウム』刊記をめぐる諸問題 飯倉洋一・市古夏生・石川了・鈴木淳  
『調査研究報告』一六号、国文学研究資料館文献資料部、一九九五・三
- ◎『古典籍研究ガイダンス』国文学研究資料館編 笠間書院（二〇一二）  
「書誌学の手引き―本をみる・さがす前に―」／「奥書・識語」／「刊記―歌書の刊・印・修―」

【資料9】「あ、この重さなんだな」――ホンモノの魅力

- （1）百万塔 ＊レプリカ。
- （2）倭漢朗詠集（慶安元年刊・特大二巻二冊）
- （3）『伊勢物語』（文政二年刊・特小一冊）＊絵入。
- （4）おくのほそ道（元禄一五年）刊・枡一冊
- （5）〔錦百人一首あづま織〕（安永四年刊・大一冊）＊彩色絵入。
- （6）掌中桂園一枝（天保一一年刊・横一冊）
- （7）〔御伽／風流〕百人一首歌双六（〔明和頃〕刊・折一帖）

【資料10】〈古典籍〉を楽しむために―主要参考文献案内―

- （A）目録学
- 倉石武四郎『目録学』（汲古書院、一九七九）
- 長沢規矩也『図解古書目録法』（汲古書院、一九七四）
- 同 『新編和漢古書目録法』（汲古書院、一九七九）
- 同 『新編和漢古書分類法』（汲古書院、一九八〇）
- 分類研究会編『日本古典籍分類表』（国文学研究資料館）

（B）書誌学

◎井上宗雄ほか編『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、一九九九）

- 山岸徳平『書誌学序説』（岩波書店、二〇〇八、原刊一九七七）
- 橋本不美男『原典をめざして 古典文学のための書誌』（笠間書院、新装版二〇〇八）
- 長沢規矩也『古書のはなし 書誌学入門』（富山房、新装版一九九四）
- 同 『図解 書誌学入門』（汲古書院、一九七六）
- 川瀬一馬『日本書誌学用語辞典』（雄松堂出版、一九八二）
- 広庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、一九九八）
- 川瀬一馬著・岡崎久司編『書誌学入門』（雄松堂書店、二〇〇二）
- 藤井 隆『日本古典書誌学総説』（和泉書院、一九九二）
- 堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』（勉誠出版、二〇一〇）
- 中野三敏『書誌学談義 江戸の板本』（岩波書店、一九九五、新装版二〇一〇）

- 中野三敏『和本のすすめ 江戸を読み解くために』（岩波新書、二〇一一）
- 同 『和本の海へ 豊饒の江戸文化』（角川選書、二〇〇九）
- 同 『本道楽』（講談社、二〇〇三）
- 林 望『書誌学の回廊』（日本経済新聞社、一九九五）
- 同 『増補 書藪巡歴』（ちくま文庫、二〇一四）
- 長沢規矩也『図解和漢印刷史』（汲古書院、一九七六）
- 今田洋三『江戸の本屋さん 近世文化史の側面』（平凡社ライブラリー、二〇〇九、原刊一九七七）
- 諏訪春雄『出版事始 江戸の本』（毎日新聞社、一九七八）
- 川瀬一馬『入門講話 日本出版文化史』（日本エディタースクール出版部、一九八三）
- 週刊朝日百科 世界の文学 84『近世の出版文化』（佐藤 悟編、朝日新聞社、二〇〇二）
- 長友千代治『江戸時代の書物と読書』（東京堂出版、二〇〇二）
- 同 『江戸時代の図書流通』（思文閣出版、二〇〇二）
- 橋口俣之介『和本入門 千年生きたる書物の世界』（平凡社ライブラリー、二〇一一、原刊二〇〇五）
- 同 『続和本入門 江戸の本屋と本づくり』（平凡社ライブラリー、二〇一一、原刊二〇〇七）
- 同 『和本への招待 日本人と書物の歴史』（角川選書、二〇一一）
- 鈴木俊幸『江戸の読書熱 自学する読者と書籍流通』（平凡社選書、二〇〇七）
- 山本信吉『古典籍が語る 書物の文化史』（八木書店、二〇〇四）
- 櫛笥節男『宮内庁書陵部書庫 渉猟 書写と装訂』（おうふう、二〇〇六）
- 吉野敏武『古典籍の装幀と造本』（印刷学会出版部、二〇〇六）
- 岡村敬二『江戸の蔵書家たち』（講談社選書メチエ、一九九六）
- 横山 重『書物搜索』二冊（角川書店、一九七八）

(C) 所蔵機関

※京都府立総合資料館

- ・『古典籍へようこそ 京都府立総合資料館の書庫から』（京都新聞出版センター、二〇一〇）
- ※西尾市岩瀬文庫……日本初の古書ミュージアム。文庫創設者は岩瀬弥助（二八六七・一九三〇）。
- ・『岩瀬文庫の一〇〇点』（西尾市岩瀬文庫編刊、二〇〇八）\*創立一〇〇周年記念特別展図録。
- ※印刷博物館……凸版印刷。

- ・『江戸時代の印刷文化―家康は活字人間だった』（印刷博物館編刊、二〇〇〇）
- ・『空海からのおくりもの 高野山の書庫の扉をひらく』（印刷博物館編刊、二〇一一）\*高野版。
- ※慶應義塾大学附属研究所斯道文庫

- ・『書誌学展図録』（斯道文庫編刊、二〇一〇）\*開設五〇年記念。
- ※国文学研究資料館

- ・『和書のおさまさま』（国文研編、和泉書院、二〇一五）\*CD・ROM付。